

身をたて名をあげ… —明治時代の受験—

平成11年3月24日～4月23日

参考書、問題集を広げ、寸暇を惜しんで勉強したり、予備校に通ったり、合否の結果で笑ったり、泣いたり…。現代の社会で私達がよく目にする受験生の姿です。けれども、このような光景が見られたのは何も現代に限ったことではなかったようです。社会状況などに違いはあって明治時代にも「受験」の制度は存在し悪戦苦闘する学生達が存在しました。今回の展示では、明治時代の「受験」の世界を概観し、当時の受験生達の様子がうかがえる資料、受験をめぐる様々な話題に言及した資料をご紹介します。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

【立身出世熱と受験】

①勉強立身熱の時代

明治維新以後、職業選択の自由が認められるなどの改革が行われ、さらに 1872(明治 5)年「学問は身を立るの財本」「人たるもの誰か学ばずして可ならんや」とうたった学制序文(被仰出書)とともに学制が頒布された。このような時代の中、士族層を中心に勉強をすることにより立身出世をしようという気運が高まった。

1. 西国立志編 原名・自助論 1

斯邁爾斯(スマイルス)著 中村正直訳 東京 須原屋茂兵衛 明3 和装

<YDM9747>

イギリス人の Samuel Smiles 著 *Self Help* の訳。先人の逸話的な小伝記を集め、自立的な生活の設計を説いたものであるが、わが国では立身出世のために教科書として受けとめられることが多く、当時の大ベストセラーとなり人々に大きな影響を与えた。

2. 学問ノススメ 福沢諭吉著 2版

東京 福沢諭吉 明13.7 第1-17編合本版 <YDM50006>

初編の著者：福沢諭吉、小幡篤次郎 初版：明治5年-9年刊

学問が富貴をもたらし得ると説いた。

3. 勉強ハ富貴ヲ得ル資本ノ説 植木 雄飛

穎才新誌 復刻版 穎才新誌社〔編〕 不二出版 <Z24-1249>

第16号 明10

穎才新誌は、青少年の投稿作文を掲載した雑誌で明治初期に発行された。「学問のすすめ」や学制序文の影響を受けた投書が数多く見られる。

②学歴・受験の時代への流れ

・帝国大学と官僚任用制度

明治19年、一連の教育法規の制定により、学校制度が再編・整備され、帝国大学が創設される。さらに明治20年、「文官試験試補及見習規則」制定により帝国大学の法科大学と文科大学及びその前身学部の卒業者は高等試験を免除され、無試験で試補(高等官の見習い)となることが認められた(なお、明治26年にこの無試験任用の特権は廃止されたが、新しい制度でも帝国大学の法科大学、旧東京大学法学部、同文学部、旧司法省法学科正則科の卒業者は予備試験と本試験からなる文官高等試験のうち予備試験を免除されるという権利は残った)。このように、明治時代に社会的威信が非常に高い職業であった官僚の任用制度と学校制度がむすびつくことにより、「学歴」が社会的に意味をもつようになるのである。

4. 東京大学百年史 通史 1

東京大学百年史編集委員会編 〔東京〕 東京大学 1984.1 <FB22-1612>

官吏の任用制度において、帝国大学に与えられた地位について触れられている。

5. 帝国大学と官吏登用法

国民之友 民友社 142号 明25.1 <雑54-1>

帝国大学の卒業生が無試験で任用されていた時代のものであるが、官吏任用制度に対する批判が見られる。

・帝国大学進学への道

同じく明治19年、全国に五校の高等中学校が設置される。(明治27年「高等学校令」により高等学校に改組、この後学校の数も増える)。卒業生は無試験で帝国大学に進学できたため、帝国大学入学希望者は高等中学校(高等学校)入学を目指すこととなる。高等学校への

入学試験については明治30年代半ばころより競争の激化がみられるようになった。中でも第一高等学校は人気が高かった。

6. 第一高等学校六十年史

〔東京〕 第一高等学校 1939.3 <FB22-E642>

高等中学校設立についてふれられている。

7. 日本帝国文部省年報 第30(明治35-36年)

〔東京〕 文部省 明37 <YDM50731>

当時の高等学校の入学倍率が表からうかがえる。

・学校の序列化

官吏の任用の他に、様々な職業資格において政府の認める一部の高等教育機関の卒業者に国家試験を受けなくても職業資格が認められるなど、特典が与えられる制度が存在した。このような事情は学校の序列化に結びついていった。また、それぞれの職業内部で、卒業した学校による昇進や出世の差もあらわれはじめていた。受験生の流れはこの序列化に方向付けられるようになり、特定の学校入学の際の競争激化につながっていく。入学案内書の類にもこのような序列化を感じさせる記事が見られる。

8. 官公私立諸学校改訂就学案内

上村貞子編 東京 博文館 明37.7 <YDM48631>

(日用百科全書 第37編)

特定の職業につくための学校選択法についても触れた修学案内書。例えば「学校系統はよく知って置かねばならない」として、同じ軍医でも卒業した学校の種類によってその後の昇進に差があることについて触れている。

9. 出世の栞 3 文学修業案内

学生 富山房 2巻7号 明44.6 <雑52-20>

当時官立大学の出身者が比較的重く用いられていたという記事が見られる。

【受験の実際】

①東京遊学

文明開化の中心地であり、多くの学校・予備校が集まる東京を目指して、向上心に燃える学生達が多数上京した。また上京をめざす若者を対象とした遊学案内書の類も刊行された。

10. 遊学せる友に贈る文

少年園 復刻版 少年園〔編〕 不二出版

<Z24-977>

第5号 明22.1

読者から寄せられた懸賞文である。

11. 遊学の栞

少年園 復刻版 少年園〔編〕 不二出版

<Z24-977>

16号 明22.6

遊学を目指す若者のための記事。上京まえの心得から各学校の情報まで様々な情報について継続的に掲載されていた。学校情報については入学の案内や費用などについて記載がある。

12. 東京遊学案内 明治 25 年

黒川文淵(安治)編 東京 少年園 明25.7

<YDM48903>

附録：各書籍館一覧

上京の際の注意、各学校の規則、主な学校の入学試験問題が掲載されている。学校規則の中には、進学準備教育を行う予備校についての記載も見られる。

13. 東都と学生

柳内蝦洲著 東京 新声社 明34.10

<YDM49084>

(学生叢書 第2)

附録：東京学校一覧

東京が学生にもたらす悪影響について触れている。

14. 東都游学学校評判記

河岡潮風著 東京 博文館 明42.3

<YDM48915>

その学校や学生の雰囲気、具体的な学生生活にも触れている。例えば東京帝国大学(明治 30 年京都帝国大学の設立により帝国大学は東京帝国大学となる)法科大学は「筆記万能大学」などと書かれている。

15. 名士の少年時代 新人国記 中部篇

報知新聞社通信部編 東京 平凡社 昭和5

<556-433>

社会で名をなした人物の少年時代の伝記を集めたもの。その中には明治時代に上京して学校に通ったエピソードもみられる。展示で紹介しているのは明治から昭和時代にかけての金属物理学者である本多光太郎氏のもの。

②苦学

明治30年頃から高等小学校を卒業しても進学できない者が増加していった。そのような背景のもと富裕な層だけでなく、貧しい層にも上京遊学熱が広まり、働いて学資を得て学ぼうとする苦学生を対象とした『苦学界』、『成功』などの雑誌や苦学ハウツー本が刊行された。

16. 学資五円苦学経験談 鉄心居士
成功 成功雑誌社 7巻1号 明38.7 <雑52-13>
苦学生数人の共同生活の様相がうかがえる。
17. 苦学法としての牛乳配達 渡邊 独尊
成功 成功雑誌社 5巻4号 明37.10 <雑52-13>
苦学の方法として明37年10月から明38年5月まで、牛乳配達、新聞配達、砲丙兵工廠職工、学校教員、人力車夫、下級官吏、税関監吏、玄関番が紹介されている。
18. 有為無資力の青年学生諸君に告ぐ 島貫 兵太夫
中学世界 博文館 11巻10号 明41.8 <雑52-12>
「日本力行会」という苦学生に職業を紹介し、援助する組織の会長が苦学で成功することの難しさを説いている。
19. 東京苦学案内 自立自治
吉川庄一郎著 東京 保成堂 明34.3 <YDM203697>
付：諸学校入学試験及手続
20. 苦学奮闘録
鈴木明著 東京 民友社 明45.4 <YDM49052>
- ③受験問題集・受験ハウツー類
21. 最近十年間官立学校入学試験算術問題詳解
竹貫登代多著 東京 博文館 明42.12 <YDM49672>
22. 最近拾年間官立学校英語試験問題解義
野村伝四、織戸正満編 東京 日進堂 明44.12 <YDM49805>
23. 受験者必携

中島優二編 東京 近世社 明39.4 <YDM49478>

附録：明治38年諸官立高等学校入学試験問題

高等学校大学予科の試験問題に加え、試験採点委員の意見、受験の心得が科目ごとに掲載されている。

24. 諸官立学校入学受験準備書

山本庫太郎編 東京 宝文館 明40.6 <YDM49494>

答案の書き方や勉強の仕方などについてのアドバイスが科目ごとに書かれている。

25. 受験用参考書の選択

中学世界 博文館 9巻8号 明39.6 <雑52-12>

④受験勉強・受験本番

26. 高等学校入学試験受験日記 XYZ

中学世界 博文館 10巻7号 明40.6 <雑52-12>

叔母さんの家に下宿している青年の受験準備や受験勉強の様子がわかる。一高の先輩にアドバイスを受れたり、眠れない夜を過ごすなど、今と変わらぬ受験生の不安な姿がわかる。

27. 最近受験界

中学世界 博文館 10巻12号 明40.9 <雑52-12>

試験笑話として「かへ玉」受験の方法が載っている。

28. 一高受験の四日間 一受験生

中学世界 博文館 10巻10号 明40.8 <雑52-12>

体格検査、数学、国語漢文、英語、物理・科学・歴史と行われた試験の体験記。

29. 実験上より得たる受験秘訣 三十学人

中学世界 博文館 11巻6号 明41.5 <雑52-12>

「〇〇は如何にすべきか」という形で参考書の選び方から、受験前の飲食物や娯楽に適するもの、答案の書き方まで詳しく記載されている。

30. 僕の受験経験談 平凡生

中学世界 博文館 12巻4号 明42.3 <雑52-12>

予備学校に入るところから合格するまでの体験記。「神経衰弱と迄は行かぬが、兎に角精神が大いに疲労して居る」と書かれているところも。

⑤競争激化の中で

競争が激しくなっていく中で、入学試験制度、競争試験のもたらす問題もあらわれるようになった。

31. 帝国議会教育議事総覧 第2冊 第13至25議会

安部磯雄編 東京 厚生閣 昭和7年 <256.1-117>

明治35年の議会で、中学校卒業後高等学校を志望しても入学できない者が増えていること、競争試験のため、大学を卒業するまでにかかり時間がかかってしまうことが問題としてとりあげられている。

32. 試験と脳の使い方 狩野 謙吾

中学世界 博文館 11巻1号 明41.1 <雑52-12>

激しい競争試験の中で神経衰弱に陥る者がいたことがわかる。

33. 中学卒業者の前途 田口 連

教育学術界 [複製版] 23巻1号 明44.9 大日本学術協会編 大空社 <Z7-2727>

「卒業後に於ける人間」をつくるのが教育の要であるとし、それに対して当時の教育は功名心や虚栄心かられて我も我もと進学や高い地位を求めるような学生を育てていると批判している。

34. 中学教育に就て 中島 健依別

教育学術界 [複製版] 23巻6号 明44.9 大日本学術協会編 大空社 <Z7-2727>

中学校の教育が、高等学校に入学するために関係があるものに偏り、訓育品性などの教育が犠牲にされていることについての批判がみられる。

◎請求記号が YDM ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)
ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■